

茨歯発第 221 号
令和 3年10月11日

茨城県歯科衛生士会 会長 様

公益社団法人 茨城県歯科医師会
会長 榊 正幸
(印章省略)

「タバコ対策・生活習慣病対策歯科研修会」の開催について

本会の事業推進については、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さてこの度、下記のとおり標記の研修会を開催しますので、ご案内いたします。

今回の講演では、日本生活習慣病予防協会理事、日本禁煙学会理事、東京都医師会タバコ対策委員会アドバイザーである村松 弘康先生より、新型コロナと喫煙・生活習慣病との関連について、医療の現場から最新の情報をご説明いただきます。

どなたでもご参加いただけますので、ご周知のうえ、貴会関係者の出席について、特段のご配慮をいただきたくお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 令和3年12月2日(木) 16時～17時30分
- 2 開催方法 Web(webex)によるオンライン開催
- 3 演題・講師

「新型コロナと喫煙・生活習慣病

～コロナ禍の医療現場から～」別紙講演要旨参照

中央内科クリニック(東京都)院長 村松 弘康 先生(医学博士)

- 4 受講料 無料
- 5 申込方法 下記URLまたはQRコードから『申込フォーム』で、11月22日までに
お申込ください。また、茨歯会H・Pにこちらの案内を掲載しますので、
そこから読み取ることができます。後日、登録いただいたアドレスに受講
の案内メールを送信します。

<https://forms.gle/BWCH3P3ftfseLVkX7>



新型コロナと喫煙・生活習慣病 ～コロナ禍の医療現場から～

東京都医師会タバコ対策委員会アドバイザー
中央内科クリニック院長 村松 弘康

新型コロナウイルスとの戦いが始まり、もう2年が経過しようとしている。日本でも COVID-19 のパンデミックにより、史上初の開催延期となった東京オリンピックが幕を閉じた。IOC と WHO の協定に基づき、オリンピック開催前に整備された受動喫煙防止対策（改正健康増進法、東京都受動喫煙防止条例）により、令和2年4月から多くの施設内が禁煙となっていたことは、コロナ禍における不幸中の幸いであったかもしれない。私は以前から多くの方々へ禁煙支援を積極的に行ってきたが、最近さらに力を注いでいる。なぜなら、COVID-19 対策を考える上でも喫煙・受動喫煙対策は大変重要だからである。

喫煙は気道粘膜を障害するため、すべての呼吸器感染症の罹患率や重症化率・死亡率を増加させてしまうが、新型コロナウイルスの場合はそれだけではない。あるウイルスが細胞内に侵入する際には、細胞表面に発現している特定の酵素を利用して細胞内に入り込むが、新型コロナウイルスが侵入経路として用いるアンギオテンシン変換酵素 2 (ACE2) は、喫煙で増加することが分かっている。

実際、喫煙者は非喫煙者と比較して COVID-19 が約 2 倍の頻度で重症化する。厚生労働省は「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き」(第 5 版)の中で、「COVID-19 重症化のリスク因子」に「喫煙」を COPD とは別の独立した重症化因子として挙げており、HIV 感染やステロイド投与より明確なエビデンスを持つ因子として記載している。

さらに、喫煙者ではワクチンを接種しても抗体価が上昇しづらいことが分かっていた。ワクチンを 2 回接種したにもかかわらず感染してしまう、いわゆる「ブレイクスルー感染」は、やはり抗体価が低い症例で起きやすいことが知られている。海外でも国内でも、喫煙がワクチン接種後の抗体価上昇を妨げることが確認されている。感染症の発症メカニズム、あるいは抗体価に影響を及ぼす喫煙をはじめとする様々な生活習慣について、さらには最新の禁煙治療法についてコロナ禍の医療現場からお話させて頂く予定である。